

2022年度 長寿の里 事業報告

自令和4年4月 1日
至令和5年3月31日

2022年度 長寿の里 事業報告

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R3 実績	96.9	97.3	96.2	96.9	97.1	94.2	96.1	98.6	97.7	96.8	98.1	97.5	96.9
	R4 目標	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8
	R4 実績	97.0	97.7	98.3	96.9	95.7	96.0	96.6	95.9	94.5	95.2	96.6	97.7	96.5
短期	R3 実績	98.4	103.0	106.0	109.2	110.6	108.5	103.6	104.9	104.9	102.9	105.5	107.1	105.4
	R4 目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	R4 実績	106.2	103.8	106.7	105.5	107.7	103.8	101.5	104.1	95.7	103.0	105.7	99.4	103.6
通所	R3 実績	92.5	89.4	93.5	93.7	95.3	95.8	95.6	95.0	95.6	94.3	92.7	93.0	93.9
	R4 目標	94.5	94.5	94.5	94.5	94.5	94.5	94.5	94.5	94.5	94.5	94.5	94.5	94.5
	R4 実績	89.6	93.9	95.0	96.3	93.2	94.2	95.1	96.9	94.5	92.4	94.7	95.9	94.3
ケアハウス	R3 実績	97.9	95.4	94.2	99.2	98.9	100.0	99.2	95.3	95.1	95.0	95.4	99.9	97.1
	R4 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R4 実績	99.2	99.9	99.1	100.0	99.5	99.3	99.7	98.7	99.9	98.1	97.4	99.0	99.2
サ高住	R3 実績	98.0	99.0	98.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.9	96.5	92.0	92.0	97.8
	R4 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	R4 実績	99.0	97.2	91.0	92.0	92.0	91.0	96.0	91.5	90.8	89.0	92.0	94.8	93.0
有料	R3 実績	90.0	96.0	94.0	94.2	95.8	96.3	95.8	96.0	95.6	93.4	92.0	100.0	94.9
	R4 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	R4 実績	99.0	100.0	100.0	95.8	97.0	99.4	98.0	95.8	96.0	99.0	97.0	92.0	97.4
訪問(件数)	R3 実績	4309.0	4606.0	4552.0	4705.0	4998.0	4879.0	4978.0	4880.0	4892.0	4676.0	4243.0	5049.0	4730.6
	R4 目標	4790.0	4957.0	4800.0	4967.0	4967.0	4820.0	4977.0	4830.0	4987.0	4997.0	4917.0	4997.0	4917.2
	R4 実績	4942.0	5062.0	4932.0	4865.0	5069.0	5010.0	5505.0	5353.0	5153.0	5408.0	5089.0	5514.0	5158.5
居宅(件数)	R3 実績	66.0	66.0	69.0	65.0	66.0	68.0	67.0	69.0	67.0	66.0	73.0	72.0	67.8
	R4 目標	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0
	R4 実績	68.0	68.0	64.0	61.0	64.0	62.0	66.0	63.0	61.0	61.0	59.0	59.0	63.0
GH	R3 実績	100.0	100.0	98.3	100.0	96.1	97.6	93.0	100.0	98.9	98.4	97.2	97.0	98.0
	R4 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R4 実績	100.0	100.0	96.9	97.1	94.4	97.2	93.0	99.8	97.9	99.1	98.4	100.0	97.8
小多機	R3 実績	93.8	77.4	74.0	64.0	68.0	65.3	74.7	71.5	82.1	75.8	71.0	82.3	75.0
	R4 目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
	R4 実績	81.8	79.6	72.1	83.0	83.0	77.5	75.1	76.8	70.8	68.9	59.3	75.6	75.3

2022年度 鎌ヶ谷翔裕園 事業報告

施設基本方針

Transformers
-新しいステージへの挑戦-

施設年度目標

- ・人財確保
- ・安定した運営と適正な経営
- ・鎌ヶ谷市地域への地域貢献活動

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】 年間平均稼働率 97.8% (従来) 96.4% (ユニット)

- ・前年比0.3%で目標達成となりました。令和5年1月期のクラスターによる稼働低迷を除き、全ての月において稼働目標を達成した事が挙げられます。入院者が少なく、入退去時のタイムラグもショートステイからの待機者のスライドにより、平均で1日を下回る空床日数で入居して頂いております。感染対策を講じてきたにも関わらず、クラスターが三つのフロアで発生してしまった事から、次年度の課題として参ります。
- ・感染症対策下でもお客様の楽しみを少しでも拡充させようと、各フロア単位でのイベントを充実させて参りました。また、面会の緩和や各種行事へのご家族招待等、ご家族と以前の様に会って頂ける様にすることも少しずつ出来る様になりお客様だけではなくご家族からも喜んで頂く事が出来ました。

【短期入所】 年間平均稼働率 102.7%

- ・稼働率は前年度比でマイナス1.5%となりましたが、目標は達成する事が出来ました。引き続き感染対策の一環として二階フロアはロングの方専門フロアとし、コロナ感染者が発生した場合でも二階に蔓延する事を防げる体制にて運営し稼働率を安定させる事が出来ました。昨年に引き続いて畑にて野菜を育て、収穫した野菜を使って調理をお客様と一緒に、みんなで食べるといった繋がりのある活動を行い、お客様方にも大変好評でした。

【通所】 年間平均稼働率 91.9% (定員35名)

- ・前年度比で0.7%増でしたが、僅かながら目標の達成には至りませんでした。特養と同時期にクラスターが発生し1月以降に大きく稼働率を落としたことが目標達成できなかった大きな要因となりました。更には営業件数に対して新規獲得が少なく、終了者の補填が出来なかった事も稼働率未達の要因となりました。
- ・管理栄養士の増員に伴い、通所における食事系イベントを月に2～3回実施し、追加利用希望も沢山いただくことが出来て稼働率に貢献しただけでなく、お客様からも大変ご好評をいただきました。

【居宅】

- ・施設入所や入院などで解約件数が多くありましたが、同時に新規依頼も多く、稼働率を維持する事が出来ました。
- ・各専門職と連携を図りながら、ご利用者に対して迅速に対応して個々に合ったケアプラン作りに努めました。

【全体総括】

コロナ禍の運営三年目となった令和四年度ですが、相次ぐ正職員の離職や特養とデイサービスにおけるクラスターなどにより、苦しさや痛みを伴いながら職員一人ひとりの頑張りによって支えられた一年間となりました。苦しい状況の中でも業務分掌やシフト本数を見直しつつ、十分に連携が取れないながらも工夫しながら乗り切ってきたと言えます。その様な状況の中でも、管理栄養士の増員に伴う食事の充実や、面会条件の緩和によるお客様とご家族の関わる機会や時間の増加、フロア単位の小規模イベントの実施などによりお客様の楽しみを充実させる事を忘れずに活動致しました。採用については、高校・大学卒合計で法人全体で9名の新卒を迎え入れる事が出来ました。中途採用は利用するサービスや企業を選別し、闇雲な求人活動に費用を割くのではなく、費用対効果を考慮しつつ実施いたしました。採用が上手くいやすいエリアにて集中的に職員を確保し、そこから近隣他施設に人材を回していく等、法人間で連携を図りながら、お互いにフォローしていく体制で人員・人材不足を補って参りました。特にクラスター時には施設間で応援を出しあいながら、何とか各施設の苦しい状況を乗り切ることが出来ました。

数年ぶりの実地指導があり、自主点検だけでは気が付かなかった点やみなし期間中の点などにアドバイスをもらう事が出来たため、令和五年度中に体制を整え、みなし期間の終わる令和六年度には業務継続計画や認知症基礎研修受講必須に対応出来る状態にして参ります。更に、疲弊した組織を生まれ変わらせるために、既存職員のモチベーションや資質向上に向けた取り組みと、新規職員採用に力を入れ、令和五年度は組織力の再生及び向上を実現いたします。

組織の土台を作り直すつもりで、一つずつ丁寧に整えていきながら、歩みを止める事無く進んで参ります。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R3 実績	96.7	97.2	97.1	96.7	98.5	96.1	98.6	97.3	96.5	97.1	97.2	96.4	97.1
	R4 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	R4 実績	97.1	97.1	98.1	98.3	97.4	98.0	98.5	98.4	97.7	94.5	96.2	96.8	97.3
短期	R3 実績	95.8	99.1	105.2	108.4	107.3	106.6	104.5	110.0	102.7	102.6	103.5	105.1	104.2
	R4 目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	R4 実績	104.1	103.7	102.3	102.3	106.9	103.2	100.1	101.2	101.1	100.8	105.0	101.4	102.7
通所(鎌)	R3 実績	85.8	84.8	90.2	90.3	91.8	93.7	89.9	91.3	96.8	95.3	93.3	91.4	91.2
	R4 目標	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
	R4 実績	91.8	90.5	93.7	95.3	90.1	94.8	99.0	99.8	98.0	77.0	83.7	89.5	91.9
居宅(件数)	R3 実績	42	41	44	41	39	42	41	42	40	39	38	39	40.7
	R4 目標	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40.0
	R4 実績	38	38	35	35	39	37	42	39	37	37	36	36	37.4

2022年度 行徳翔裕園 事業報告

施設基本方針

地域の中でハブの役割を担い、地域の様々な人や物・場所などと行徳翔裕園が『コラボ』することで、笑顔あふれる地域を作ります。

施設年度目標

1. 基本方針に向けた企画の実施とGG式マニュアルの実践
2. 理念浸透と組織力の強化・離職率の低減
3. 理念ビジョンに合致する採用活動
4. 人員配置目標を守り、IT活用や導入での業務改善
5. お客様のご要望に伴う収益力向上
6. 地域とのコラボ活動による効果

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【軽費老人ホーム】

年間稼働率99.2% (目標98.0%・対目標+1.2%・前年度比+2.2%)

令和4年度は、入居15件・退居15件と件数が少なくはありませんでしたが、入居15件のうち7件は、自費サービス利用からの介護保険への切り替えにより空床日数を抑えることが出来、入退居に伴う空床日数平均は-4.5日となりました。現在、入居待機者は減少傾向にありますが、これまでコロナ禍において面会が出来なかったこと等で入居を躊躇っていた方等へ再アプローチするとともに、引き続きデイサービスご利用者や居宅介護支援事業所、医療機関へ情報を発信し、入居待機者を確保していきます。入院については、昨年度17件から7件と減少、入院に伴う空床日数も合計67日・平均入院日数-9.6日となりました。主な入院の理由についても、持病の悪化によるもので、骨折入院は1件となっています。次年度においても、GG式転倒予防プログラムを進め、さらにテンシャルインソールを導入し、転倒予防に努め、骨折入院を0件に抑えられるよう取り組みます。年間平均稼働率としては、入退居・入退院ともに空床日数を抑えることが出来たため、99.2%と目標稼働率を達成することが出来ました。

IT機器の導入については、デモで試用した吊り上げ式はお客様・職員ともに心身へ感じる負担が大きかったため、スライド移動式のリフトを個浴へ導入しました。吊り上げられるというお客様の心的負担と職員の身体的負担を軽減を図ることが出来ました。

【通所】

年間稼働率98.3% (目標98.0%・対目標+0.3%・前年度比+0.2%)

第1四半期では目標未達となりましたが、空き情報だけでなくお客様の担当ケアマネージャー毎に、毎月のご様子や笑顔を前面に掲載した広報誌を営業ツールに加え、毎月の居宅訪問時に情報提供と収集をおこないました。営業ツールを活用することでケアマネージャーとの話す機会も増え、コンスタントにご紹介いただけたことで登録者数100名前後を維持し、稼働の安定に繋がりました。新規登録については問い合わせがあるものの、定員を満たしているため、空きが出た場合のみご利用の条件付き登録となる事で、ニーズに合わず契約に至らないこともありましたが、毎月月初めにショートステイや通院などでの確定休みと当月休数(月平均60名)予測を立て、日ごとの利用可能人数に合わせた条件付き登録者や、行事などでの追加利用を募るなど柔軟な利用人数の調整がおこなえたことで、年間目標98%を達成することができました。

コラボの取り組みとしては、パン屋・野菜青果店・和菓子店・リユースショップなどの多種多様な地域商店とコラボし、実際にセンターに来ていただき販売をおこない、地域の方々からは翔裕園を知っていただく機会となり、施設=高齢者という思い込みを払拭し、若い世代でも足を運びやすい施設としてPRにもなり好評をいただきました。また、月替わりの季節の変わり湯や健康茶で、優雅なバス&ティータイムを楽しんでいただきました。これらの取り組みは、ケアマネージャーとの話題にもなりました。今後もより楽しみながら、ご利用時に特別感を感じていただける雰囲気づくりをします。

【全体総括】

「基本方針に向けた企画の実施」

基本方針に基づいて行徳翔裕園と地域の商店や就労支援事業所、医療機関などとの「コラボ」の他、施設内で各専門職が「コラボ」して、腸活カフェや台湾健康おやつなど、美味しく健康になる企画を実施しました。

「理念浸透・組織力の強化・理念に合致する人材採用・離職率低下」

四半期ごとの全体会議の開催はできませんでしたが毎日、朝、夕のタイミングでのクレドの唱和や派遣職員を含めた全職員へのクレドシェアリングデイを開催し、理念の浸透を図りました。派遣から直接雇用への切り替えはありませんでしたが、離職率は約12% (業界平均約14%) となりました。来年度は離職率をさらに低下させるよう組織力を強化します。

「ITの活用」

他施設とオンラインで繋いで体操やリハビリを積極的に実施し、様々なリハビリ職による専門的なレクチャーを受けることでリハビリの質の向上と職員の技量アップにつながりました。また個浴にリフト付きシャワーキャリーを設置し、より多くのお客様にリラックスタイムを提供しながら、職員の介護負担を軽減しました。

「地域とのコラボ活動」

地域商店と出張販売や雑巾の寄付・障がい者就労支援事業所とノベルティづくり・往診医療機関共同ワクチン接種会場の設置・少年野球チームサポーター活動・自治会と老朽化した歩道橋修繕の署名活動など、地域と共にお客様が生きがいをもって健康に生活できる地域づくりを進めました。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
軽費	R3 実績	97.9	95.4	94.2	99.2	98.9	100.0	99.2	95.3	95.1	95.0	95.4	99.9	97.1
	R4 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R4 実績	99.2	99.9	99.1	100.0	99.5	99.3	99.7	98.7	99.9	98.1	97.4	99.0	99.2
通所	R3 実績	96.3	93.0	96.3	97.5	99.9	99.9	99.8	99.9	99.9	98.0	98.2	99.9	98.2
	R4 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R4 実績	80.3	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.9	99.7	99.9	99.9	99.9	98.3

2022年度 いちかわ翔裕園 事業報告

施設基本方針	
ACTION ～お客様のために、目的達成のために、自ら動く！～	
施設年度目標	
1. クレド理念浸透と組織体制強化 2. お客様目線でのケアとお客様満足度向上（～してあげたい） 3. 安定した施設運営	
重点項目に対する実績報告(各事業ごと)	
【特養】 管理課 相談部門 目標稼働率98.2%に対して年間平均96.1%と未達となりました。年間通しての入院者の発生と、持病等での長期入院者が継続した結果、平均入院者数が月6名となりました。また年間で退居者が37名となり、2月には10名のお客様の入れ替わりもあったこと、さらに12月に発生したコロナクラスターによる入居調整にて、入居が追い付かなかったことが大きな要因です。入院者の減少する取り組みとして、多職種で感染症・口腔ケア・事故減少について研修、また第四四半期には、食事介助、緊急時対応の研修を行いケアの見直しと向上を行いました。今後も定期的な研修を行い、入院者や事故が減少するように取り組んで参ります。稼働率安定の取り組みとしては、コロナ感染症の影響もありましたが、毎月営業会議を実施し、営業先のスケジュールリングと目標数値を定め、他事業所と関係性を築きました。年間で入居者や入居相談のあった事業所を中心に営業を行い、問い合わせ・申し込みは増加しました。またお客様の生活の充実の為、ご要望や生活習慣を把握する為、五週に一回のケアカンファレンスを行い、個別援助計画とケアプランの連動、状態変化などに合わせ対応しました。今後もお客様の意向や生活が楽しく充実した生活になるように、一人ひとりに合った居室環境など整えて参ります。また日々お客様の様子の把握の為、ラウンドを行い他の部署と連携し、入院者を骨折事故など減少させ、次年度は目標稼働率を必達します。	
介護課 新しい生活様式に合わせたお客様満足度向上を目指し、お客様の声を取り入れた余暇活動予定表や担当表を作成、運用することで生活の中にも楽しみを見出して頂けるよう取り組みました。個別ケアの充実に力を入れ、お客様の趣味を活かした畑などの園芸活動をお客様と職員と一緒にを行い、更に業務マニュアル・個別援助計画書・24時間シートを適宜見直し・更新することで、一人ひとりにとって適切なケアを全職員が統一して提供出来るよう努めました。また、毎月各ユニットより感動介護事例を選出し「いちかわ感動介護」を決め、事例を共有しクレド浸透に取り組みました。ICT・IOT技術と福祉用具の活用に関しては、既存の福祉機器の定着化を進めると同時に、介護ロボット「HUG」や「AAMS」の設置・試行を進め、実践に導入出来るよう準備と研修を進めました。今後はケアの質を高めると共に、各ユニットの共用スペースやセミパブリックスペースの設え、お客様の居室環境の整備を進める為、ご家族や他職種との連携を一層強化し、実践して参ります。	
管理課 栄養部門 今年度はセレクト食の導入や薬膳料理の継続、世界の料理の提供を通してお客様があまり触れる機会のないような料理も積極的にチャレンジし、食に対して興味・関心を持って頂くことが出来ました。各部署と協力し、コロナ感染予防をしながら食事のバイキングや小規模単位での食レクの実施し、五感で感じ、選ぶ楽しみを持って食事を味わって頂き、お客様のニーズに沿った食事提供の実現が出来ました。また食べる楽しみだけでなく口腔ケア関連のケアの統一と実施にも取り組みました。更なる質の向上に向けた情報発信や専門的指導、歯科医師との連携を行うことでよりお客様の健康管理に繋がられるよう今後も継続して参ります。また地域交流など新しい取り組みにも積極的にに関わり、食事面でも地域との繋がりをお客様に持って頂き満足して頂けるよう努めて参ります。	
管理課 医務部門 今年度は同病院内での嘱託医師の変更があり、その都度連携をとり体制や薬の見直しを行いました。持病の悪化や転倒事故による骨折等で入院者が多く発生し、持病の対応や日頃の体調管理などを往診・受診体制を見直しました。また年間通してコロナ感染対策の研修を行ってきましたが、年末にコロナクラスターが発生しました。千葉県認定看護師からの指導のもと、今後も感染症対策の見直し、物品管理や研修を行って参ります。また次年度はお客様の健康状態の把握と情報共有を徹底し早期発見、早期治療を行い入院者を減らすとともに、救急時の研修等も積極的に取り組んで参ります。	
【全体総括】 稼働率においては目標未達となりました。今年度は前年度と比べ入院者や退居者が非常に多く、空床数に対し待機者数が追い付かない状況でした。また年末年始にかけてコロナクラスターとなり、新入居の受け入れが出来ず稼働率低下に繋がりました。ゾーニング解除後は営業方法を再度見直し、年度末には満床となりましたが、複数名の長期入院により稼働率回復には至りませんでした。持病悪化や転倒事故による入院が増えている為、引き続き医療ケアの質の向上させる為、実践的な勉強会と福祉機器の活用を進め、入居までのタイムラグを3日以内となるよう継続的な営業を行って参ります。また今年度は看取り撤回からの入院や転院等も多くあった為、次年度はターミナル委員会を中心にケアの質を向上させ、お客様とご家族が安心して終末期を迎えられるように対応して参ります。職員状況については派遣職員から直接雇用への切り替え等により、派遣職員3名削減となりましたが、年度末にかけて退職増となりました。今後は職員の定着化に向け辞めない組織体制作り、職員採用においては、全員人事の意識を持って直接雇用の職員を増やし、組織力強化に繋げて参ります。また年度末の3月1日には開設10周年を迎えることができました。お祝い行事として施設内ではマグロの解体ショーを開催し、近隣のお世話になった方々や各事業所、ご家族には粗品を配布させていただきました。次年度は地域との交流を活性化させ、常に笑顔で新しいことにチャレンジしながら、お客様と共に地域に飛び出し、満足度向上に向けて取り組んで参ります。□	

年間数値目標と実績(利用率)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R3 実績	97.3	97.4	97.6	97.0	99.5	99.2	99.9	99.4	98.6	99.1	98.1	99.3	98.5
	R4 目標	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2	98.2
	R4 実績	94.6	97.1	97.9	97.7	97.0	96.8	95.5	97.4	95.6	95.0	92.4	96.1	96.1

2022年度 かしわ翔裕園 事業報告

施設基本方針

Make New Normal
～ 新たな時代へ向けて楽しくて前向きな施設をつくろう ～

施設年度目標

- ①多様なニーズに応える個別ケアの実践。
- ②目標稼働、予算達成とPDCAサイクルの実践。
- ③新組織基盤を形成、効率化を図り、ご利用者への生きがい支援を行う

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【サービス付き高齢者向け住宅】（目標96% 対目標比-3.0% 対前年比-4.8%）
 ・年度を通して5名の退去者が発生しており、以前として待機者を確保することができておらず、新規入居までのタイムラグが発生している。常に1室が空いている状況が続き稼働未達となっている。
 ・平均介護度2.8（前年比+0.2）となり年々ケア増加と非定時の対応を伴う機会が多く、重度化対応を強化している。
 ・日々体操やアクティブ活動は行っていたが、お客様の状態の変化に伴う非定時でのケアが増加することで、個々の生きがい支援まで発展的な活動展開を行うことが出来なかった。

【住宅型有料老人ホーム】（目標95% 対目標比+2.4% 対前年比 +2.5%）
 ・ご入居者の入れ替わりが年度を通して2名のみと変動少なく、入院者も削減することで目標達成となっている。サ高住より料金的なアドバンテージがあり待機者は確保出来ていないがタイムラグ少なく新規確保することが出来ている。
 ・随時看取り対応も発生しておりフォーマル、インフォーマルサービスを活用し重度となった方においても対応することができている。常態的ではないが個々のニーズを充足する活動も増えてきておりお客様のやりがいとなっている。

【通所】（目標95% 対目標比+3.8% 対前年比+3.0%）
 ・毎月の営業活動による新規獲得により曜日登録者は上限となっており、キャンセル待ちの状態となっている。急なキャンセル分を追加等でのイベント開催によりフォローする活動を年間通じて行うことが出来、稼働目標達成となっている。
 ・コンパクトな空間をアットホームという強みに変え、一体感があるなかでも活動のブラッシュアップを重ね、お客様に受け入れられている。

【訪問介護】（目標4230件 対目標比+229件 対前年比+311件）
 ・併設ご入居者の介護度上昇に伴いサービスを追加することで目標件数を上回り、介護報酬も予定以上確保することが出来た。職員の採用状況にも合わせ介護サービス量（件数）を調整している。
 ・退職者が多く発生してしまい、人員確保については補充が派遣職員が中心となってしまった。また派遣職員の入れ替わりが早く指導に時間を要し、人員が安定せず常時不足といった状況であった。情報共有や職員同士のコミュニケーションが不足し一体的/一元的なケアがマンパワーに頼ったケアとなってしまうことが多く発生した。
 ・外部訪問介護を開始し、現在登録者20名以上、月200件以上の実績となっており、目標予定数を確保することができている。閉鎖する事業所も多い中でヘルパーの採用も少しずつ進展し地域の介護ニーズ充足を担っている。

【居宅】（目標35件 対目標比-9.4件 対前年比-1.6件）
 ・併設訪問介護と連動し、ご利用者の状態の変化に合わせ区分変更申請を実施し、支援に必要なプランを作ることが出来ている。選任ケアマネを採用することが出来ず施設管理者が兼務状態が続き目標件数を確保することが出来なかった。
 ・必要な社会資源を活用することで介護保険以外で個別のニーズに応えることが出来る様に体制を整えている。

【全体総括】
 施設全体状況で入居においては退居から新規入居までのタイムラグがありほぼ目標値の着地、通所は登録者も上限に達しており通年において安定した稼働を達成している。人材については、退職者が多く発生してしまい補充が派遣職員となり入れ替わりの回転が速く人員が安定しない、または不足している状態が続いていた。年度当初から外部訪問介護の参入を開始し順調に予定数をクリアしており、内部訪問介護もサービスを増加し介護報酬を増加することが出来たことで施設全体の収入が安定した。訪問介護、通所介護の主要2事業が通年で安定した稼働を行えたことで予算以上の収入を納めたが、物価高騰、派遣や人員の定着や教育などに課題を要している。次期、新組織体制下でより効果的な人材活用と組織的な運営を築き、採用力や育成力を強め、職員同士が協力しあいながら一人ひとりがレベルアップしお客様へのサービス向上に起因出来る様に実施していく。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
サ高住	R3 実績	98.0	99.0	98.8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	96.9	96.5	92.0	92.0	97.8
	R4 目標	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	R4 実績	99.0	97.2	91.0	92.0	92.0	91.0	96.0	91.5	90.8	89.0	92.0	94.8	93.0
有料	R3 実績	90.0	96.0	94.0	94.2	95.8	96.3	95.8	96.0	95.6	93.4	92.0	100.0	94.9
	R4 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	R4 実績	99.0	100.0	100.0	95.8	97.0	99.4	98.0	95.8	96.0	99.0	97.0	92.0	97.4
通所	R3 実績	96.0	95.3	94.8	93.7	95.9	96.3	99.4	95.8	95.6	95.0	96.3	95.0	95.8
	R4 目標	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
	R4 実績	99.9	99.0	99.8	99.8	96.0	99.0	99.0	99.8	99.0	97.0	99.0	98.0	98.8
訪問介護 (件数)	R3 実績	3873.0	4114.0	4061.0	4143.0	4414.0	4301.0	4328.0	4230.0	4208.0	4049.0	3678.0	4386.0	4148.8
	R4 目標	4110.0	4257.0	4120.0	4267.0	4267.0	4140.0	4277.0	4150.0	4287.0	4297.0	4297.0	4297.0	4230.5
	R4 実績	4289.0	4381.0	4275.0	4176.0	4356.0	4283.0	4789.0	4615.0	4420.0	4675.0	4431.0	4818.0	4459.0
居宅(件数)	R3 実績	24.0	25.0	25.0	24.0	27.0	26.0	26.0	27.0	27.0	27.0	35.0	33.0	27.2
	R4 目標	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
	R4 実績	30.0	30.0	29.0	26.0	25.0	25.0	24.0	24.0	24.0	24.0	23.0	23.0	25.6

2022年度 ふなばし翔裕園 事業報告

施設基本方針

Positively Fan (前向きに楽しく)
 ~私たちの笑顔でお客様が楽しく、更に地域へも拡大~

施設年度目標

1. ふなばし翔裕園を起点として、訪問介護の拡充を図る
2. 福祉用具を活用し、ノーリフティングケアを確立する
3. お客様の機能維持に向けて本格的に取り組む
4. 新入職員の育成及び次世代リーダーの発掘

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】 年間平均稼働率 95.79% (目標97% 対目標比 -1.21% 対前年比 0.13%)

- ・目標稼働率達成できなかった。
- 要因 ①誤嚥性肺炎での入院が前年の9人から17人へと増加し、長期入院になる事が多く、目標未達となった。
- ・特養入居の入院者の居室を短期入居にて空床利用することで、施設総稼働維持に努めるも目標未達成となる。
- ②自立支援の為、生活リハビリを中心に施設サービス計画書に組み込んだ。ITを使った評価を行う事の基本情報は入力済み。評価の確実な実施の為、機能訓練はメニューとして再度、施設サービス計画書へ組み込む。
- ③リフトやハグの利用について、ご家族にも説明同意をもらい活用をした。これまで2人介助で対応をしていたお客様の離床時間を、リフトを使用し一人介助にすることで増やす事が出来た。
- ④医務課、介護課や外部のサービスと情報共有をすることで身体機能の共通理解、認識をし一人ひとりの残存機能を活かした個別ケアの検討がチームとして出来た。

【短期入所】 年間平均稼働率 104.5% (目標100%以上 対目標比 +4.5% 対前年比 -2%)

- ・目標稼働率達成となった。
- 要因 ①年間新規登録者数25件で目標達成はしたが、月によって契約件数にばらつきが見られた。
- ②特養空床を最大限利用し稼働率の確保を行った。
- ・12月にユニット内でのコロナ感染にて一時利用を中止する中、利用中のお客様は延長利用などで対応をした。帰宅後にコロナ発症をするなどで感染対応終息後も、お客様の健康状態が安定しない事もあり、キャンセルを新規獲得にてカバーをした。
- ・営業に関しては、常時、在宅部門で連携を行い、毎月月初には分担し実績配布をした。イベント開催時には事前に居宅へ連絡し情報を伝え集客へと繋げ、急なキャンセルが出た際には、直接電話にて営業をおこなう。

【訪問介護】 年間平均訪問回数 700回 (目標 687回 対目標比 +13回 対前年比 +104.9回)

- ・目標訪問回数達成となった。
- 要因 ①コロナ禍の影響によるデイサービス、ショートステイの利用制限の為、臨時サービス依頼が増加。
- ②在宅での看取りや入院直前まで在宅での生活を希望されたお客様のサービス受け入れ。
- ・お客様の安心安全を確保するため、緊急時の対応や連絡先シートを作成し、全ヘルパーに対して周知をした。
- ・月1回、かしわ翔裕園、阿見翔裕園のサ責とミーティングを実施。グレーゾーン等のケースについて情報共有書類の統一化、簡略化に向けてのすり合わせを行い、連携強化に努めた。

【通所】 年間平均稼働率 88.3% (目標93% 対目標比 -4.7% 対前年比 -2%)

- ・目標稼働率未達成となった。
- 要因 ①各月終了者が発生する一方で、新規獲得者数が目標達成せず、実績登録者が大幅に減少する。
- ②長期利用をしていたお客様のADLの低下による転倒や入居等で利用終了が相次いで発生する。
- ・上半期中は、前年から発生していた登録者低迷から抜け出せず、新規獲得が伸び悩み大きく稼働を下回る結果となる。登録者が少ないため、イベント企画追加などのスポット利用にも限りが出てしまった。
- ・12月には、デイサービス内でのクラスター発生により、大幅に稼働を落とす結果となるも、下半期を通し新規獲得者16名と、約1年分の新規獲得をおこなうことができた。

【全体総括】

- ・年間稼働率目標に対して、ショートステイ、訪問介護が達成。特養、つかだについては未達成となる。昨年同様コロナの影響がある中で、ショートステイ、訪問介護はご家族やケアマネとの日々の関係性構築及び柔軟なニーズ対応等が結果に繋がっている。また、特養においても入院者が発生した際の柔軟な対応や密な情報共有、連携により総稼働の維持に努めることができた。デイサービスでは、上半期新規獲得に伸び悩みながらも、下半期にて挽回し高稼働の状態を令和5年度へと繋げることができた。
- ・特養介護課においては、ノーリフティングケアに重きをおき、ハグや福祉用具、福祉機器、介護ロボットの定着化をおこなうことができた。また、下半期中に、2代目のリフト導入やアアムスの手配を終え、令和5年度開始直後より開始することができる体制も構築することができた。
- ・訪問事業においても、在宅事業推進部のもと、1年を通し他施設との横の繋がり、横展開をふなばし翔裕園を中心に実施することができた。また、その中で見えた課題についても、令和5年度取り組めるよう年間計画を立て確実に展開をしていく。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特養	R3 実績	97.4	96.6	95.0	95.0	93.5	94.7	97.5	98.3	95.6	91.6	96.9	96.2	95.7
	R4 目標	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0	97.0
	R4 実績	96.3	96.9	98.2	96.3	94.4	96.0	93.3	92.5	94.6	94.9	98.2	98.3	95.8
短期	R3 実績	101.0	106.8	106.7	110.0	113.9	110.3	102.6	99.8	107.1	103.2	107.5	109.0	106.5
	R4 目標	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	R4 実績	108.3	103.9	111.0	108.7	108.4	104.3	102.9	107.0	90.3	105.2	106.4	97.4	104.5
訪問	R3 実績	436	492	491	562	584	578	650	650	684	627	565	663	581.8
	R4 目標	680	700	680	700	700	680	700	680	700	700	620	700	686.7
	R4 実績	653	681	657	689	713	727	716	738	733	733	658	696	699.5
つかだ	R3 実績	92.0	84.6	92.9	93.1	93.4	93.4	93.4	92.9	90.1	88.9	83.0	85.7	90.3
	R4 目標	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0	93.0
	R4 実績	86.4	86.1	86.4	90.2	86.9	83.1	82.5	87.9	81.4	95.7	96.2	96.3	88.3

2022年度 香流川翔裕園 事業報告

施設基本方針

いつまでもこの町で・・・
～地域福祉の未来を切り拓こう～

施設年度目標

1. 地域の高齢者の生きがいを支えるサービスの充実
2. 組織力の向上
3. 経営安定化

重点項目に対する実績報告(各事業ごと)

【特養】 年間平均稼働率 96.7% (目標96.0%)

・12月にコロナクラスターが発生しましたが、感染したお客様は感染前と変わらない状態まで回復しました。感染者の対応に関して反省点も多く、感染対策委員会にて振り返りを実施し再発防止に取り組みました。

・7月～9月にかけて入院者が多く、退院見込みのないお客様の入院長期化により入院空床が増加しました。退居時のルールをお客様やご家族に理解していただくまで時間を要したため、入居時だけでなく入院の可能性が高い体調変化が見られた時には再度説明の機会を設け、入院空床を削減し稼働率の低下を防止致します。

・お客様の夢や生きがいを叶える「ドリームプロジェクト」を開始しケア研究会で発表しました。感染対策をしながらお客様がご家族との思い出の場所に外出できるよう支援しました。

・職員配置や業務内容、新人研修の見直しを行い残業費用を削減できました。(前年比約-64万円/年)

【グループホーム】 年間平均稼働率 97.8% (目標98.0%)

・予期せぬ急変による入院や退居が多く、目標稼働率を達成することができませんでした。医療連携体制を強化し、小さな変化を見逃さず健康管理に努めて参ります。

・GG式転倒予防プログラムを実践し転倒事故防止に取り組みました。転倒事故による入院者は1名でしたが、お客様の重度化が進行したことにより事故件数も減少傾向にあります。施設での看取り希望者も増えてきているため、2023年度は重度化に対応できる体制を整備して参ります。

・お客様と一緒に調理する機会を月2～3回設けました。お客様のリクエストをお聞きしつつ薬膳も取り入れながら季節感のある献立作りを意識しました。行事食の夏越ごはんは外部機関の目に留まり、HP上にて紹介されました。

・ドリームプロジェクトにてお客様の習慣や趣味、過去の職業に関連する場所への外出支援をしました。

【小規模多機能】 年間平均稼働率 75.3% (目標80.0%)

・8月にコロナ感染者が発生しサービスを縮小したことや営業活動が出来なかったことが影響し、9月以降新規登録者が目標とする人数に届かず、3月末での登録者は16名となり目標稼働率を達成することができませんでした。

・特養、グループホームの入居希望者に対して申し込み時より小規模多機能の待機利用を案内し、常時3名前後の待機利用者を獲得することができました。入居までのタイムラグは3日以内を守りましたが、2023年度は退居日の同日に入居できるように、入居担当者と準備を進めて参ります。

・地域包括を中心に月平均105件の営業活動を実施しましたが、関係機関を通すことなく直接地域の方から利用の相談を受けられるように介護相談室の認知度向上にも取り組みました。近隣の公共施設や商店等に相談チャンの設置や相談室を知って頂くための活動を行いました。また、地域包括主催の認知症勉強会に講師として参加しました。

・訪問中心で利用するお客様を獲得するため、訪問サービスの質向上を目指しました。訪問サービスでドリームプロジェクトを計画し、主に外出支援を実施しました。現状は日常生活の延長にあるような支援が多いため、もっと大きな夢や生きがいを叶える訪問サービスとして魅力を高めて参ります。

【全体総括】

特養は目標稼働率を達成しましたが、グループホームと小規模多機能は目標未達となりました。営業活動においては関連事業所への訪問営業を月平均105件実施した他、地域住民との関係構築と施設の認知度向上のため、地域活動にボランティアとして積極的に参加しました。高齢者向けの配食サービスや地域住民が主催する子ども食堂にて地域の方々と交流するようになり、地域と良好な関係を築きつつあります。

採用活動においては学卒採用、中途採用共に目標人数に到達しませんでした。近隣の高校からボランティアを数回に渡り受け入れることができ、学校との繋がりを作ることができました。2023年度は学生がボランティア活動を通して介護の仕事の魅力ややりがいを感じられるよう働きかけ、応募に繋がるよう努めて参ります。また、Instagramを開始し1年が経過しました。求職者が一緒に働きたいと感じてもらえる投稿を継続し応募者の増加を目指します。

コロナクラスターが発生し職員の欠勤や一時的な業務量の増加による残業が発生しましたが、業務分掌や新人教育の見直しと他施設からの出向職員の協力のおかげで、残業費用は年間昨年比約150万円削減することができました。職種や部署を超えた協力体制を施設全体で構築し更なる費用の削減に取り組んで参ります。

2022年度はドリームプロジェクトでお客様と一緒に外出する機会が多く、地域での活動も拡大しました。感染対策を求められながらもお客様や地域のためにできることを前向きに考えて実行に移したことで、コロナ禍以降の活動の礎を築くことができました。2023年度も地域の高齢者の生きがいを支援し、香流川翔裕園が地域福祉の中心的な存在となるように邁進して参ります。

年間数値目標と実績(利用率)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		特養	R3 実績	96.2	98.1	95.0	99.0	96.9	86.8	88.5	99.5	100.0	99.5	100.0
R4 目標	96.0		96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
R4 実績	99.8		99.5	99.0	95.2	94.0	93.3	99.0	95.3	90.0	96.5	99.6	99.7	96.7
GH	R3 実績	100.0	100.0	98.3	100.0	96.1	97.6	93.0	100.0	98.9	98.4	97.2	97.0	98.0
	R4 目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
	R4 実績	100.0	100.0	96.9	97.1	94.4	97.2	93.0	99.8	97.9	99.1	98.4	100.0	97.8
小多機	R3 実績	93.8	77.4	74.0	64.0	68.0	65.3	74.7	71.5	82.1	75.8	71.0	82.3	75.0
	R4 目標	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
	R4 実績	81.8	79.6	72.1	83.0	83.0	77.5	75.1	76.8	70.8	68.9	59.3	75.6	75.3